

生徒SOSコミュニケーション
支援システム

kimino
micata



いつでもどこでも、
君の味方。

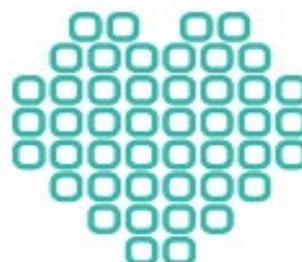
2024年度

実施効果報告レポート

【事業者名】
株式会社 Guardian

【サービス名】
kimino micata®

【支援項目】
①生徒指導(個別)
②生徒指導(集団)



Guardian

2025年1月

＜基本パッケージ＞

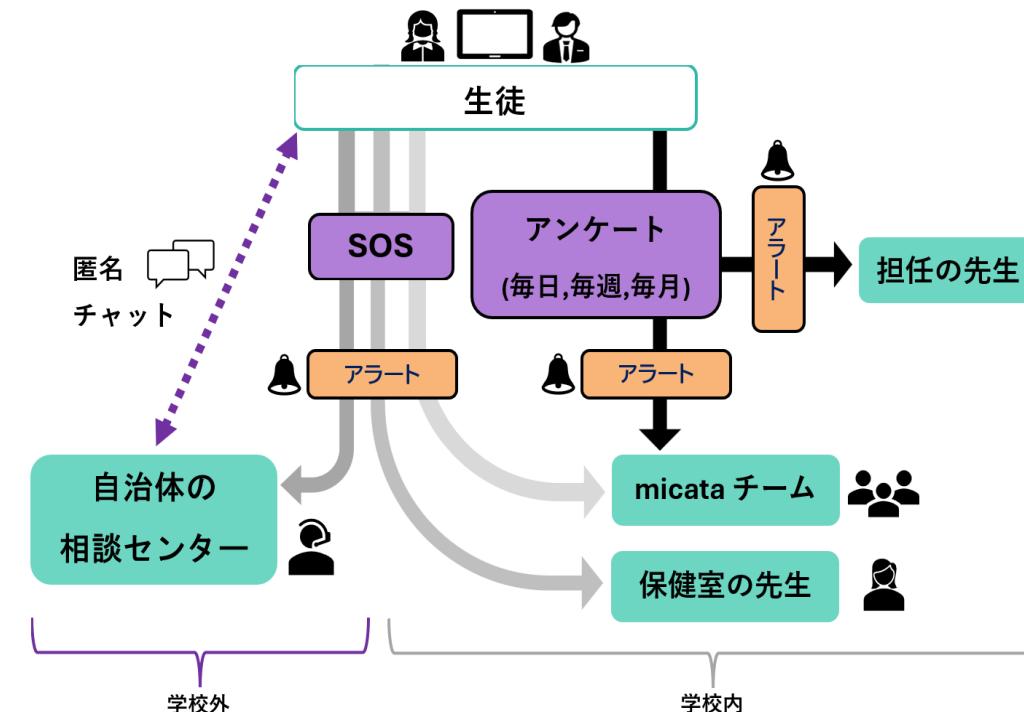
- ・kimino micataシステム(毎日、週、月アンケート
生徒・教員ユーザー登録等)
 - ・サポート(マニュアル提供、導入時研修、導入
後研修・サポート、ツール保守等)

オプション追加

- ・micata相談センター(生徒が直接臨床心理士等の専門家に相談できるチャット)
 - ・サポート(導入研修・サポート、ツール保守等)

＜その他＞

- ・多様性を英語で学ぶワークショップを
オンデマンド提供



【児童生徒・教職員が抱える課題】

【児童生徒】

- ・悩みを相談できる人が欲しい。
- ・特にいじめの問題など先生や友人に相談しにくいため、学校と関係のない第三者に相談したい時がある。場合によっては専門性のもった人に相談をしたい。
- ・自分が声を上げていることを周りの人に知られたくない。
- ・相談したいことがあっても、電話はハードルが高い上、せっかく電話してもなかなかつながらない。
- ・アンケートを書いても、すぐ対応してくれない。
- ・誰かに勝手に自分の悩みを見られるのがいやだ。

【課題解決のためにサービスが果たす役割】

当社のサービスは日頃の子どもの声を拾い、相談センターなどの外部機関と接続し学校関係者以外の人に連絡が届くしきみであり、こどもの相談者は安心して相談することができる。また、当社のミカタ相談センターと接続すればプロのカウンセラーが対応するため、守秘義務が徹底した環境の中で、専門的な視点から子どもの悩みに寄り添い、問題解決のための子ども自身の判断力を高めることができます。加えて、これまで教師が生徒の相談にのる負担が大きく、そういった相談をプロにまかせ、本システムを利用することにより、アンケート集計にかかる教師の負担を軽減し、子どもたちの心の健康を健やかに保ち勉強に集中できる環境ができます。

【教師】

- ・通常業務が忙しく、生徒たちの相談にのりたいが、そのための十分な時間が取れません。そのため、可能であれば相談を専門にする人に当該業務を委託したいです。
- ・集計や問題の把握に時間がかかるので、アンケート直後にすぐ相談内容や結果を分析したレポートが閲覧したい。それによって生徒にすぐ対応することができるため。



■ kimino micata サービスを活用による成果

【活用場面とその効果】

<児童生徒>

- ・教室でなくても、自宅や放課後にタブレットがあれば、「いつでも、どこでも」自分の好きな場所で、アンケートに答えることができた。
- ・教室で一斉にアンケートをするときと比べて、自分だけの時間を使って本当に知りたいことを書くことができた。
- ・これまで、面と向かって言うのに勇気がいることが、比較的簡単にタブレットで、悩んでいることを伝えられるようになった。



<教職員>

- ・使い勝手が良く、生徒がすぐ理解できやることができるので、短時間でアンケートをすますことができるようになった。
- ・スコアが高い子どもだけでなく、何か記述した子どもや、少しでも何か心や体調の変化した子どももリストアップできるようになった。
- ・学校全体の生徒の状況がより把握できるようになり、生徒とのコミュニケーションがやりやすくなった。
- ・アンケートの集計時間の時間短縮につながった。



■サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

© 株式会社Guardian 2024

【課題 ⇒ 改善策】

・担任のクラスの生徒の状況の詳細を知るのに、いくつかボタンを押さなくてはならず、一目でわからない。

⇒クラスの生徒の状況がビジュアルに一目でわかる画面作りを検討しています。

・小学校1年生の初めは字を読むことも難しいのでアンケートをするのに時間がかかる。

⇒小学校1年生は理解度の点で課題を感じています。小学校2年生以上ですと問題なくなるのですが、現在対策を検討中です。

・個人情報保護等の課題の上で仕方ないと思いますが、久しぶりにログインしようとすると、メールでのワンタイムパスワードによる認証が必要になることについて、もう少し扱いやすくなるといいなと思います。

⇒SSO接続について開発の検討を始めています。

・SOSを受信してもログインするまでわからないので、新着のアイコン表示があると便利だと思う。

⇒SOS受信通知についてシステム開発検討しています。

・システムが重く、次の画面に移動する時に待ち時間が発生し、生徒によっては何度もタップしたり、閉じたりしてしまう。

⇒システムのサーバー容量を変更いたしました。現在は問題は解決できていると思います。

・システム導入により、これまでより多くの生徒の心の状況や課題が検知されるようになったので、全体として生徒一人にかかる教員の時間が増えた。

⇒生徒にとって些細な事でも伝えられるツールができたことで、生徒の伝えるハードルが下がったことはよいことですが、教員の負担軽減のため、独自のミカタ相談センターにて生徒のチャット相談を受けるサービスを構築し提供する予定です。

■ サービスを活用した児童生徒・教職員等のコメント

<児童生徒>

- ・誰に伝えたいか選ぶことができて、良いと思う。
- ・先生が早く対応してくれるようになった。
- ・学校や先生が、わたしのことを大事に思ってくれる。

<教員>

- ・アンケートの集計が簡単にできるので、負担軽減につながっていると思う。
- ・児童にとっては気軽にSOSを出せるようになっていると感じます。紙のアンケートに書いたり直接教師に言うのは抵抗があるけど、タブレットで家にいるときに答えるなら、嫌だったことを教師に伝えることが出しやすくなるのかな、と思う。
- ・子どもの小さな悩みや困り、学級での気付きなど、kimino micataを通して伝える良い機会になったと思う。また、私自身、これまで以上に子どもと話をすることができて子ども理解につながった。
- ・画面やことばがフランクで親しみがある。精神的にきつい時にそのことを発信する先(方法)がある。
- ・紙のアンケートだけでは収集することのできない情報を拾うことができたり、生徒たちにとっても幅広く悩み等を伝える手段となっている。
- ・いつでも、夜中などに出来ることがよかったです。
- ・子どもの相談する手段、選択肢が増えることで、悩みに早く気付き、支援することができる。

■ 会社概要

会社名	株式会社Guardian
本社所在地	京都府京都市左京区吉田橋町33-16
会社設立	2022年12月1日
特許取得	特許 第7398813号
商標取得	キミのミカタ



www.guardian-jp.com

info@guardian-jp.com

代表取締役CEO プーザー・ケイトリン・エリン

2016年英国キール大学(犯罪学・日本語専攻)卒業。卒業後、熊本市の小中学校の外国語指導助手(ALT)として勤務。子供たちと接するなかで、いじめ・虐待について問題意識を深め、子供の命を守ることを決意。問題の早期検知を可能にするアプリを開発し、2022年にガーディアン社を設立。



一般社団法人JSIE2019WISE熊本最優秀賞受賞、在日英國商工会議所 British Business Awards 2023 Diversity Equity & Inclusion賞受賞、2024 京都知恵アントレ大賞特別賞受賞、2024 丸和ソーシャルビジネス賞受賞、UNDP Youth Co:Lab Social Innovation Challenge Japan 2024 AWS賞受賞、2024 LED関西ビジネス発表会ファイナリスト、他。

毎日新聞「アプリで子どもを守る」2023年10月掲載、読売新聞顔Sunday「こどものSOS把握しやすく～教育現場向けアプリ:キミのミカタを開発」2024年6月23日掲載

スライドマーカー